

## 「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	現代医療の高度化と医療シティズンシップに関する社会学的研究		
研究代表者	小松田儀貞	役職	准教授
フリガナ	コマツダ ヨシサダ	学位	文学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	<a href="mailto:komatsuda@akita-pu.ac.jp">komatsuda@akita-pu.ac.jp</a>
主な共同研究者 (学内)			
主な共同研究者 (学外)			
研究の内容			
<p>高齢化が進む今日、医療はわれわれの日々の生活にとってますます重要なものになっている。言うまでもなく日々の生活を支えるのは健康であり、それを支えるのが医療や福祉にほかならない。医療の未来を展望することは、少子高齢化に曝され、その持続可能性が脅かされているわれわれの社会の未来を構想することと切り離して考えることはできない。</p> <p>生命科学の進展を背景にした生物医学の発展による医療の高度化は、多くの恩恵をわれわれにもたらしている。しかしその一方で、これに伴う専門分化等により医療の過程は複雑化し、医薬や治療法をめぐって技術的、経済的リスクもまた顕在化するようになった。患者のみならず医師その他の医療関連専門職も個々の状況認識や判断において困難を強いられる機会が増えている。</p> <p>こうした状況の中で、医師が「良き医療を自らの能力と責任で行う」これまでの医師が医療の中心にあるパターンリズムは、医療倫理の問題とは別に現実には困難になっている。患者に理解を得られない治療は成立することができず、「患者中心の医療」という主張も広く受け容れられるようになってきた。医療をめぐるトラブルを回避する意味でも、医療現場では医療を供給する側と供給される側との間における知識の共有や信頼関係の構築が重要なものと考えられるようになってきており、近年、医療者と患者あるいはその家族との「連携」や「協働」への注目が集まっている。</p> <p>上記の問題は、一般市民あるいは地域住民の医療への参加あるいは医療者と患者の連携・協働という観点から考えることができる。N・ローズは、現代医療における上記のような問題状況について「生物学的シティズンシップ」(biological citizenship)という視角から言及している(Rose 2007)。本研究では、これを特に医療における「シティズンシップ」(市民権あるいは市民的能力)として考えたい。当然ながら医療に関わるのは専門家ばかりではなく、誰もが医療に関与する可能性を持つステイクホルダー(利害関係者)である。地域における保健等の健康増進の活動など住民参加の事例を含め、これまでの医療(制度)に対する批判とは異なる形で医療のあり方を変えていく(非専門家である)市民的活動もさまざまな形で発展している。(30年後の医療の姿を考える会 2012) こうした活動も広くシティズンシップの現実的な形態として捉えることができる。</p>			

本研究の目的は、このシティズンシップの視角から、今後ますます進むと考えられる医療者（医療供給側）と患者（医療需要側）の協働関係について、現在進行している諸事例に注目し、聞き取り調査等によって現状を明らかにすると共に今後のあるべき医療の姿を展望することにある。

具体的な研究課題としては、①主として先端医療に関わる患者団体の病院等医療供給側に対する働きかけや協働の動きについて事例を探り分析する、②地域医療における住民参加等による包括的なケアに向けた協働の実践例を探り分析する、ことを考えている。

分析の対象としては、①については、女性のがん患者団体（宮城県）、②については岩手県一関市藤沢町をそれぞれ計画している。いずれも全国的に知られる活動を展開している組織、地域である。（大本圭野 2012 他）これらの対象者・対象地については、既に関係があり、研究に対する協力を得られる環境にある。

今後も進むであろう医療の高度化の中で、先端医療、地域医療等のさまざまな医療現場において医療クライアントとしての患者自身の医療リテラシーの向上、そして医療者と患者（およびその家族）の信頼関係の構築あるいはその強化は必要不可欠である。本研究を通じて、地域医療分野にとどまらない包括的ケアシステムの可能性を探るなど、医療の未来の姿を展望する社会モデルの提示につなぎたい。

※本研究に関連する研究課題を平成 25 年度科学研究費基盤 C（一般）として申請予定である。

#### 【参考文献】

- ・ Nicolas Rose 2007, *The Politics of Life itself: biomedicine, power, and subjectivity in the twenty-first century*. Princeton University Press
- ・ 大本圭野 2012, 『わが町はいかにして先進自治体となったか 交響する地域自治と生活保障』日本経済評論社、
- ・ 猪飼周平 2012, 『病院の世紀の理論』有斐閣
- ・ 30年後の医療の姿を考える会 2012, 『メディカルタウンの自分力～救済の客体から解放の主体へ～』30年後の医療の姿を考える会 等

#### 研究の独自性・アピール点

医療における「シティズンシップ」（市民権あるいは市民的能力）という視角から高度化した現代医療の状況の困難と今後の展望について論点を明確化する点。

#### 期待される成果・波及効果

今後も進展する医療の高度化の中で、先端医療、地域医療等のさまざまな医療現場において医療者と患者（およびその家族）の信頼関係の構築あるいはその強化に資する社会モデルの形成が期待できる。

#### 関連する主な業績

- ・ 1999～2000 年度文部省科学研究費基盤研究 C（2）「保健・医療・福祉システムの地域的総合化に関する社会学的研究」（課題番号 11610196）研究代表者・小松田儀貞
- ・ 小松田儀貞「中山間地域自治体における保健・医療・福祉システム地域的総合化の展開—岩手県藤沢町の事例を中心に—」『富士大学紀要』（富士大学学術研究会）2001 年、第 33 巻第 2 号、123～132 ページ

#### キーワード

シティズンシップ、生物医学化、地域医療、医療者と医療クライアントの連携・協働